

国道10号 路肩崩壊

・鹿児島県霧島市野久美田地区において、8月7日からの大雨により、路肩崩壊が発生。現地状況の詳細な把握及び応急対策等の検討のため、TEC-FORCEアドバイザーを派遣し現地調査及び助言等をいただいた。

参加者:鹿児島大学 ^{いむら}井村准教授

●TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年8月8, 10, 11, 12日)

被災状況



応急復旧状況



現地確認



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・斜面からの湧水が恒常的にあり、非常に多い。今回の被災は、豪雨により斜面からの湧水が増加、道路上を横断し、路肩を越えて盛土側に流れ路肩付近の盛土が流出・崩壊したものである。
- ・対策工において、斜面側からの湧水を既設横断水路等で処理し、道路側へ流さないことが重要である。また、道路崩壊面からの地下水があるため、擁壁等では背面の排水対策を十分に考慮する必要がある。
- ・湧水が恒常的にある箇所のため、崩壊斜面上部の状況も確認しておいた方が良い。
- ・応急対策については、単粒碎石による埋戻、単粒碎石を詰めた大型土嚢による土留を行い、大型土嚢背面に吸出防止材を設置することにより、崩壊面からの湧水処理及び道路表面の流水について対応可能と考える。
- ・本復旧対策については、まず斜面からの湧水処理が重要。道路を横断させないよう確実に歩道端で集水し、既設横断暗渠等で海側に流すことが重要と考える。